日本に古くからある「伝統工芸」。一般的には 「高価」で「鑑賞用」と思われがち。そこで、職 人が使う人のことを考え、時代とともに進化し続 けてきた「伝統工芸」の魅力を紹介します。

【問】ものづくり推進課☎626-7538

伝統的工芸品とは

盛岡には南部鉄器をはじめ、長い歴史の中でその技術が培 われ、現代に伝わる品がたくさんあります。これらの品々は、 日常使いのものから、観賞用まで多岐にわたります。

特に盛岡市は、これらに携わる職人や工房が多く、伝統工 芸産業が盛んな街として知られています。

国はこの伝統と技術を守っていくために、下記のとおり 法律に基づいて「伝統的工芸品」を指定しており、盛岡では 「南部鉄器」「岩谷堂箪笥」「秀衡塗」「浄法寺塗」の4つ が指定を受け、職人の手によって作り続けられています。

▶伝統的工芸品に指定される要件

「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づき、次の5つ

- 全ての要件を満たしていること
- ①日常生活で使う工芸品
- ②作る過程は手作業が中心
- ③100年以上前から続く技術・技法で作られている
- ④100年以上前から続く原材料で作られている
- ⑤一定の地域で工芸品を製造する業者が、ある程度の規模を持



5つの要件を満たした製品には、左の伝統 マークを使った「伝統証紙」が貼られています。 この伝統証紙が貼られている製品は、検査を実 施したものであり、品質について誇りと責任を もっている製品です。

承認番号R1-126



◆南部鉄器

昭和50年2月17日指定

約400年前の9代目盛岡藩主南部 利雄は、産業や文化に関心が高く、 茶の湯釜や釣り鐘、大砲などを製造 させるため、京都から釜師を招いた のが始まりといわれています。その 後、茶釜を小ぶりに改良した鉄瓶が 日用品として手軽に用いられるよう に。南部鉄器の繊細で美しい模様は、 手作りの鋳型のものもあり、作る人 のこだわりが感じられます。また、 さびを防ぐため、約900度の炭火の 中に鉄瓶を入れて焼く「釜気止め」 は、南部鉄器特有の技術です。伝統 的工芸品の指定を全国で最初に受け ています。



◆岩谷堂箪笥

昭和57年3月5日指定

天明年間(1780年代)に岩谷堂 城主である岩城村将が米の生産だけ に頼った経済を変革しようと、家臣 に車付き箪笥や長持などの大型の木 工家具を研究させたのが始まりとさ れています。箪笥の金具は、職人が 手打ちや手彫りをして作っており、 しっかりした作りに加え龍や虎など の繊細な模様は優美さを感じさせま す。また、鍵のかかる金具もあり、 金庫としての役割も果たします。ケ ヤキなどを材料とし、重厚な漆塗り が施されています。年月が経つと漆 は色の発色とともに薄くなり、木目 の美しさが現れます。



◆秀衡塗

昭和60年5月22日指定

平泉に中尊寺金色堂などの仏教美 術をもたらした奥州藤原氏が、京都 から職人を招き、この地方特産の漆 と金をふんだんに使って作らせたの が始まりといわれています。江戸時 代後期には、今の奥州市衣川で漆器 が盛んに作られるようになりました が、現在は平泉町周辺が中心です。 作業工程は当時のままで、漆器の表 面に装飾を加える技法で、源氏雲や 草花の模様と金の有職菱紋が描かれ ています。金箔が施されているため 華麗な見た目ですが、光沢を抑えた 仕上げは、手にとってみると漆本来 の質感を感じることができます。



♦浄法寺塗

昭和60年5月22日指定

神亀5年(728年)に行基が現在の 二戸市に八葉山天台寺を建立した時、 京都から僧侶が派遣され、自家用の 汁椀を作るために漆工技術を伝えた ことが始まりといわれています。藩制 時代には、南部藩の重要な産物とし て、天台寺周辺から八幡平市安代地 区付近にまで産地を広げ、「御山御 器」の名前で知られています。汁椀や 飯椀など、普段使いの器が多く、無 地で光沢を抑えた質感が庶民の生活 になじみ浸透しました。耐久性・耐熱 性に富み、木の持つ温かさや柔らか い質感、使い込むことで磨かれる美 しい艶を感じることができます。



ぜひ会場で日本の職人の技を感じてみてください。

受け継がれる匠の技が大集合!

※伝統的工芸品の製造をしている技術者の うち、高度の技術・技法を保持する人

【日時】11月3日(1)~5日(火)、 10時~17時※5日は16時まで 【場所】アピオ (滝沢市)



それぞれの想いを後世へ

~作り手・届け手・使い手~

中研ぎの様子



(株)うるみ工芸 代表取締役 藤村 真紀さん

代々漆器作りをしており、戦後に安代町荒 沢地区から盛岡へきました。父も職人だった ので、工房の漆の匂いの中で育ちました。使 う人を思って作る職人のこだわりを知り、こ の伝統を絶やすわけにはいかないという思い から職人の道へ。父のもとで塗りの技術など を学び、職人として認めてもらえるまでにな りました。1つの漆器が出来上がるまでには、 塗りや研ぎ(写真上)など46もの工程があり、 3カ月から6カ月かけて完成させます。一番繊 細で大変なのが上塗りですが、漆器の良 しあしを決める下地の工程にも神経を使いま す。丈夫に作るために布で補強し見えないと ころにこそ手間ひまをかける — 。 父から教 漆塗りの伝統工芸士。平成 わった大切なこだわりです。お客さんから「い ろいろな漆器があるけど、やっぱりこの質感 がいいね」と言ってもらったときは本当にうれ しかったです。使う人に、長く一生ものとして



にそれぞれの想いを聞きました。

長い歴史のなかで盛岡で育まれてきた伝

統工芸。作る人、届ける人、使っている人

南部鉄器協同組合理事長 岩清水 晃さん

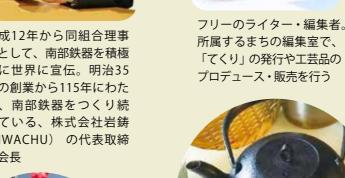
盛岡の南部鉄器は400年以上の歴史と伝統 があり、鉄瓶は今や国内外で人気があります。 ステンレス製などのやかんと比べ、鉄分が多 く摂れることやお湯の味がまろやかになるな どの効果があること、家族で世代を超えて使 えるほどの丈夫さが魅力です。職人は20年か けてやっと一人前になります。鉄瓶のアラレ (表面の模様)をアラレ棒という道具で、鋳型 に約3千個押しますが、一個でもずれると店頭 に出さないというほど、こだわりを持って作っ ています。見た目だけではなく、やはり実際に 的に世界に宣伝。明治35 使ってみて良さを実感してほしいですね。旧 年の創業から115年にわた に対応した南部鉄器のフライパンなど時代に 沿った工夫もしています。これからも伝統を 残しつつ、時代にあった挑戦をしていく南部 鉄器をぜひ多くの人たちに知ってもらい、普 段使いとして長く愛用してほしいと思います。



南部鉄器の

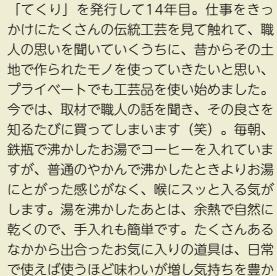
フライパン

平成12年から同組合理事 長として、南部鉄器を積極 り、南部鉄器をつくり続 けている、株式会社岩鋳 (IWACHU) の代表取締 役会長





まちの編集室 水野 ひろ子さん

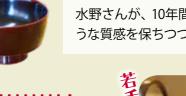


盛岡の普段の暮らしを伝えたいと、雑誌

に潤し、生活を楽しくしてくれます。 長年作り続けられる中で、無駄がそぎ落と され、洗練された美しい形と、使う人のことを 考えて作られた実用性ある工芸品。これから も長く愛用していきたいですね。



水野さんが普段使っている鉄瓶と 岩谷堂箪笥の端材を生かした鍋敷き 水野さんが、10年間愛用している浄法寺塗のお椀。人肌のよ うな質感を保ちつつ、年数を重ねるごとにツヤが美しく変化



◆参考: 伝統的工芸品産業振興協会・

伝統的工芸品の本

南部鉄器工房の若手職人らが、若手ならではの感性で作っ た作品を展示します。職人による作品解説もあります。 たくさんの来場お待ちしています!

【日時】展示期間:10月6日(日)~27日(日)、9時~19時

※27日は16時まで 作品解説:13日(日)14時から

【場所】もりおか歴史文化館(内丸) 【問】南部鉄器協同組合☎689-2336



市長コラム 蘇岡市長 从藤松明

盛岡には南部鉄器や漆器をはじめとして、長い伝統 と高い技術に裏付けられた「本物」がたくさん あります。わが家にも昔から南部鉄器があ り、その質の良さは身近に感じていると ころです。11月に開かれる「KOUGEI EXPO IN IWATE」は、全国の素晴 らしい工芸品が集まるまたとない機 会。会場で、その良さを目で見て、 触って、感じてみてください。

2 広報もりおか 1.10.1

30年度岩手県青年卓越技能

者表彰受賞。父の勝又言治

さんは浄法寺塗の伝統工芸

士に全国で初めて認定

浄法寺塗のマグカップ

表面のアラレ

広報もりおか 1.10.1 3

愛用してほしいという思いで作っています。